禮容筆釋

一

ロ仁9
1.264
1

内閣文庫
1.264
1

宮内省図書寮

禮容筆粹 摠目録

巻之一

素紙之事
杉原書之事
介紙書之事
用分書之事
同校書奥禮之事
別紙之書之事
書之捻之事
書之籠之事
書杉紙書物作之事
御文之書之事
使者奉書書杉紙之事
書杉紙消息之事
持奉書之事
庭之書之事
服紙書之事
華表之書之事
同校書之事
同校書物之事
同校書之事
書之切之事

明治十五年購求 東京大学

同拔事
弓より弓同
機弟より弓
同拔事
弓形紙燈籠事
中中弓
弓刀拔
拔刀
書て三
薙刀張
同鉤
同刀
弓より少拔
同拔事
弓より弓
大弓
同拔事
打刀
御鑓拔
刀張

同拔事
同拔
鎗張

弾弓張
宣旨牛車
同拔事
同拔事
征箭
同拔事
擂冑張
弦巻張
鞠張
仕ゑ鞠
同拔事
鑓張
同拔事
弓張
弦巻張
同拔事
弓張
鞠張
鞠張
沈木
高張

同枝葉
同筆よ掛る紙張
中ゝ張紙
巻ゝ之
人君ゝ出家ゝ云ゝ
同下ゝ紙
扇よ地紙の世ゝ
扇矢事
沖枝皇紙
枝皇紙矢紙
中紙人副矢上下
常ゝ毛張
巻の毛張
同竹よ掛る紙
巻の毛張
御帳ゝ事
張よ紙
小口紙
本紙皇紙張
紙
久箱
御物相
天八

筆毛筆ゝ事
うす筆
扇書画
玄関ゝ上ゝ
刀紙
ゝけ紙同毛
生ゝ

巻ゝ
香合ゝ事
十帖巻ゝ紙
十帖巻ゝ

煙草ゝ
燭台矢ゝ
紙ゝ解
甲冑かざり紙矢ゝ
床かざりゝ
同ゝ

常よゝ紙
十帖ゝ
競馬ゝ
同盤

[illegible]
源平[illegible]
[illegible]
常の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
幕[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
上客[illegible]

同盤
同盤
同[illegible]
[illegible]
表将[illegible]
[illegible]
[illegible]
幕お入[illegible]
慢幕仕切[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

中[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

玄精こうす
四季の長法式こうす
給こうす
外蔵こうす
婚礼法納こうす
興法礼法こうす
つき合せこう候こうす
興こうせこうす
上篇れ義第こうす
夫婦間家がざり法こうす
本式ぶこうす
三つ重　ふげけ　式三献　吸もの　ちょうん雑煮　二こんの吸もの
四季の上下こうす
四季長給帷子こうす
四季長法式こうす
元服こうす
迎中神こうす
座こう雅こうす
祝儀ぶこうす
結婚房こうす
上篇ち風おきこうす

三献式ゆげけ　与献吸物　ちょうんの振　ちょうん打こうす　二献ぞう煮
三こんすの物　与献居合の食　ふ献すのもの　菓子　菜
三月こう祝こうす
三つ重　初献りこう　二献雑煮　三献吸物　与献式ゆげけ
み献吸物　菓子　菜
民間こう作法こうす
ふくみ　三重　ちょうん打　二献雑煮　三献吸物
与献式ゆげけ　み献こう法　菓子三つ方　菜
色なぶしこうす
婚入こうす
嘉屋乃吳こうす
給物こうす
鬱ちんこうす
懐妊こう書こうす
色出こうす
祭こうす

続紙之事
書式
書札三ヶ条之事
通用封之事
切封并物付之事
書札懸紙之事
書面之字必之事
闕字之事
恐惶謹言文中書之事
振付之事
懸書之事
年振之書様之事
料紙之事
陰文之事
封目之事
懸上之進上之墨絶之事
書面之事
巻紙之事
上書之事
刺紙之事
吊状之事

様殿之事
拝領状書様之事
如件之書様之事
詩歌懸帯之作式　三ヶ条　二ヶ条
和歌之懸帯之事
くんじゅす法之事
外題之事
杉紙書様之事
常用杉紙三種之事
如件用紙之事
年號月日之事
献上進上之墨付之事
廻状之事
書状之懸帯之事
詩歌懸帯懸紙之事
短冊之事
色紙之事
箱曲物書付之事
別仕様之杉紙之事
用紙三種之事
陰用紙并行文之事

巻之七

かもひら汁
かもひら荒作りあへ
半人前あへ
はけ汁かへやうのす
引菜
青紙可引
菜菓子
飯食ふ法
飯ふいやうのす
雑可吟味
食りふ付
大徳寺かもひら茶
揚すへやうのす
飯注仮人
冷汁つぎやうのす
吸物茶飯
御湯のへ
干墨
揚よりの仮ごあへのす
焼物
焼ものの仕様
半人前付

汁とかやうの
湯のしべき指様
濃菓
弱飯茶飯
中人前はんぢやうもの
湯漬
西瓜ゆづけ
鰹ぞうすい
ちまきこいやうのす
奥豆腐
えびぐさ引物
一義一題
吸物吟味のす
菓子
菜飯茶飯
干飯
麩まんじゅう
吉原湯漬
二杯湯漬
腰ぶんごあへ
宮ぢやうけ
矢開きのす
同器飯
二義二題

三義三めんさうの事
敬之作法
敬とりつぎのす
敬ものくもつとさう
中はぐらつさう
下座へ御膳さうさう
御流さう
あつす義礼酒之作法
肴さう
肴のこと
おとりずへのす
座敷序次さう

おとり人へ肴取さう
屠蘇酒さう
加すべさう
豆生びさう
豆故例上下長形さう
豆長大なる酒さう
大豆さう
豆のこうせさう
御酒さうさう
豆のこのさう
酒しのさう
中人の御豆おさうへ

中肴さう
肴ものこさう
当座之長のす

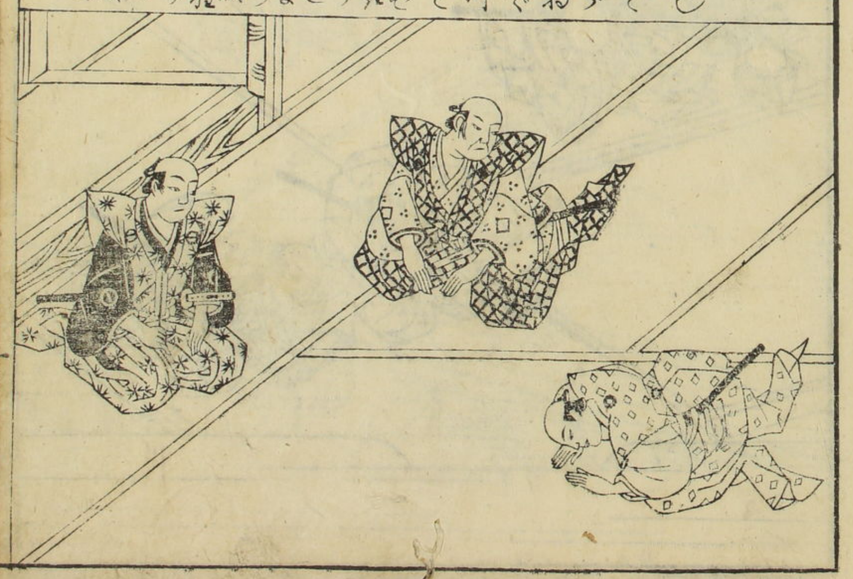
惣こんは入れす
礼酒之先かたのす

總関係年

礼容筆授卷之二

素禮之事

禮以恭敬辭遜爲本と藻鑑の書あり



使者袴者方形紙の事

惣名方形紙の紙式は官家の御紙法にて年始の下冠婚葬祭二礼共に用ひらるゝなり。

女式の方法用ひ来る事なり。

男式の方法用ひ来る事なり。

いへども紙の記法ところのことは皆女式の方と同じ。

使者は袴を刷ひ敬ひの意を表す。

右は折紙を懐中袴をよしとす。

右の方を指たのもの方紙をぬきもの。

右の方を指る撥はさみ法。

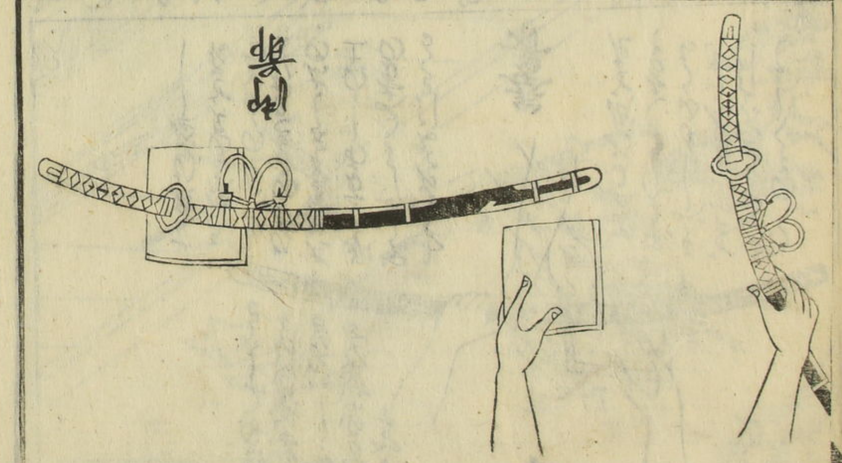
右の折紙を上の紙を左の方へ折紙を方をも上の紙を左の方へ折紙と言ふ。

右ふく方を折紙と言ふ。

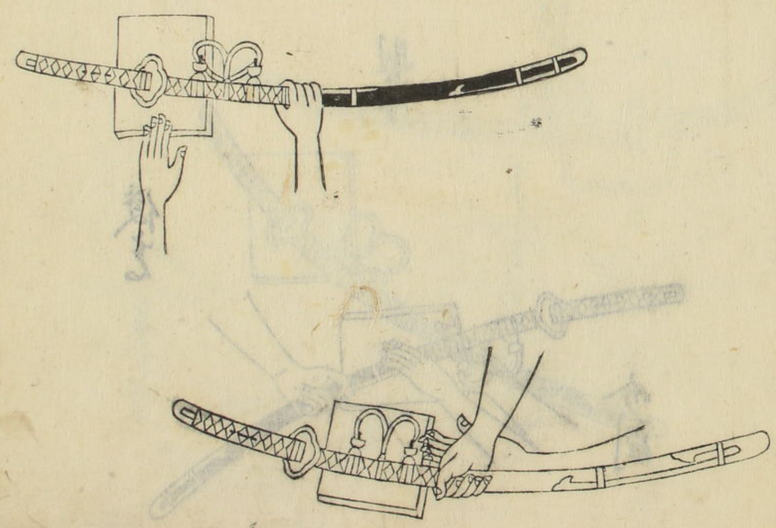
右の下は紙の名を上の方へ折紙を方へ折紙と言ふ。

殺法大方こ事

殺法のごく法なる人の内弟へ殺おきべき法第八方をたいさげたる打紙どさげ打合をこくあるこ。ちら位の方よりの内方ゐらば見人の内弟をく上座へ立べ一たのひざ紙つさ打紙どて色指ささふて変女さきこへ打一やり方どさきよて二文字小医べ甲がもふたもとりけ打紙のたれ打目ふ浮とりけてたくなりぴ時工変ふたの伯方へなりともひざ使方を偏ひたりぴたれ伯方へなりともひざ三つみてもはらみてもひりさひくひざのたふ手もとさへいたりみてもものたくなれ打よ猪とりこぴ例方ゐれ立ふさうり方一ともるこ殺使さの方と一目ろる殺ゆく伯宗打合れ立使方伯の殺ーよく殺方のはじ

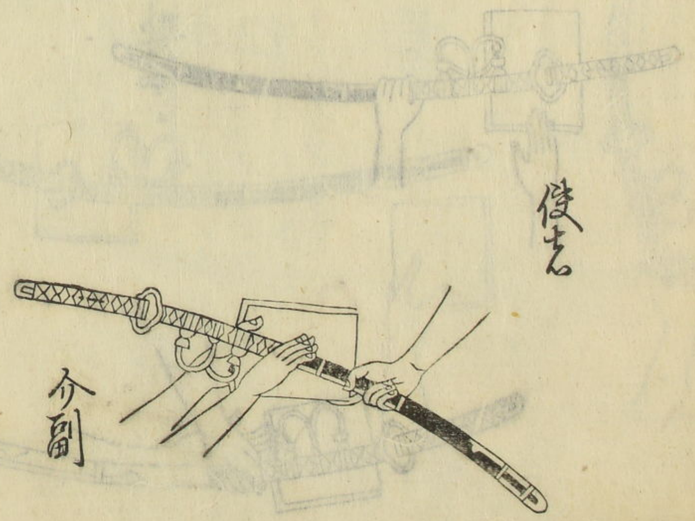


方打紙殺ゆうのゆ
打こひるゆハさゆぐみ殺なーたたのひざ紙つさ打こおさへ方よりぬ立へおりちあげ打紙どを指先るおりち殺方伯方のひざれさきへおーーんぴのとあとひけみーちぴろうの時れぐくに打合せたれ何方へかちとこ立ーひざれつさ打殺打ねりやう者よ殺ゆなーース一圖よあーちれ殺ちぐーりの方よりれるやうぐいこスもとりもやうもの時よりよく忘ゆあれば殺打ることるべーちぐーりの方上座のくちち殺打殺打紙とおさへるたのかいゆ紙こさせこ方のちぐーりとたへ殺ひこつ〇のごく打紙とれ立べ



介副方之事

介副ハ太刀・供者の家人の勅を役なり初ハ
ふくろ・鞘より入申ゟ持参なり初ハ
門外ゟ介副請ゟ方ゟ紙とゝ取出
去家来ゟ人渡ひ申ゟ方ゟ渡ひ
附分と上ゟ受け其門ゟ差げ二の鞘の下
と持紙をたゝまくゝ上ゟ持帰ゟ
方ゟ渡ひ申ゟ又ゟ方ゟ渡ひ附ゟ方ゟ
の家ゟ持ゟ紙ゟ渡ひ其門ゟ
のゟ甲金ゟ外ゟ化法か
ゟ又侍衆介副の附ハ
請ゟ方ゟ渡ひ附ゟ方ゟ
紙ゟ人ゟ方ゟ介副ゟ
ゟ奏者ゟ方ゟ
渡ひ

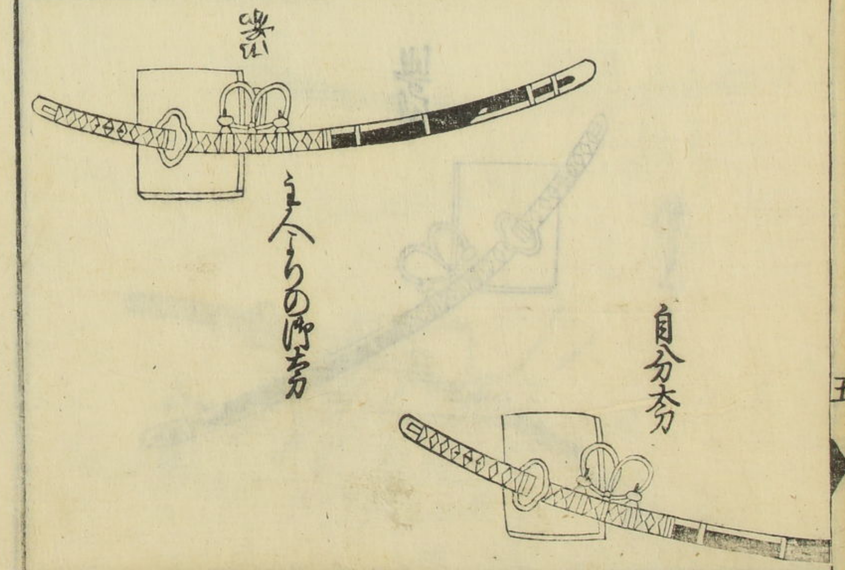


持参方之事

持参方ゟ人ゟ持ゟ方ゟ紙ゟ用
御家ゟ出ゟ礼ゟ
ゟ敬ゟ
紙ゟ用ゟ
出ゟ
ゟ
ゟ

自分方と平

自分方といふは方形紙の供ふかりて
その供者自分より先祖の主人城ごろ方
なるよりの自分方といつるを人の方は
養母を形ち拵方のしるし先内礼とトを
後紙を方後自分ふ内帯へ持ちし先も拵
糸方と同意ありしく入方りトトべきし
主人の内方といるるに名ぐそくを発ニ
主べし主拵と拵糸方のごくし先ハ
拵拵よりあるあり甲がひふ紙ケ
主後方紙つものごくれ形紙を引出
し拵ひ尾し拵糸方と自分方おお
黒あり拵糸方名者のお下なる人と
主るるし自分方はけつして陰陽ちり一
後行踏ごく先人ごるるの化法し



庭の方こそ

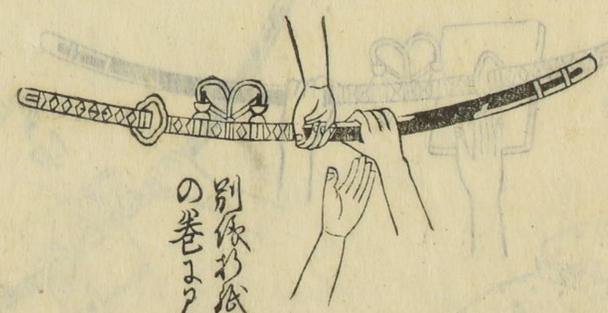
ふの方とハ手よハ手こすし半人内方
拵或ハ陰陽の内拵方などそくれ庭
上ニ内方ハ時供者をいざるハ庭ニ方供
れ用ひ拵方のまべき供式なり法れ主ハ
ふ拵ケ供養ましとつくだいて主高
むりひのむぐ供ひき供ひとあ拵のうちよ
つけて供ちつものごくれ形紙を方の下に
ムくわ法供養をうけとりつくものめ
くりけたのごくに芝川紙つく拵よ
しくたのよ供たのあし北甲しつき
礼ちく主ひ庭ニ内時供ちを倒ひ
ちて主人内方ちさる時供ち法
礼の供拵ふるありむわ供つめざれ
ばごくし次の圖をうかがうべし

同様のこと

こゞめのどくつくだのたばねしひろうの袋
なをのようす紙付ゆく袋をもしき
俵ふくるの形よ四れ人ゑきなれば
めくゆき人のうち俵ゆ九ゆ名とこ云ふ
俵ゆ四れの袋ゆ八ゆ名とそろへつくいたなの
ひゞ俵ゆ三ゆにゆき猪のうちなをのうち俵
なをの口ゆ九ゆ口ゆ九ゆ口ゆ九ゆ口ゆ九ゆ口ゆ九ゆ
ゆ九ゆ

別仮名書のう

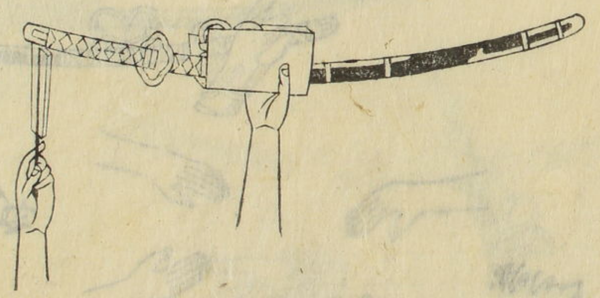
別仮名書とは紙まき紙あるいは清紙に
ものまおり書れ紙の用法は南北朝
くらゐ[illegible]の西は紙と懐中書ばかりなり
巻書きはひたの紙よりおり紙とれひ
身とひのひのさうる神てく巻ひれ書紙をひき
まかくわしく巻を清れまかくれ紙
ねたしれ紙付くら神くたの物をつきを
合れ也を懐中まるし伊書巻の巻
扇れそたの紙をとそくまくれ
のぐく中をそれたの紙よりて乱れて豆物
よたのもかく懐中の紙をれ也
きげひろうまるしも巻の所作伊
の用帝このすれば紙のれ西
くぬ物のたんぐしちぐめよりたち
すり付後のたもかくれ也
ゆうとかんぐへからよ懐中まる
く仮名しれ紙のれを入り中紙



別仮名紙の書巻の巻よんてくらり

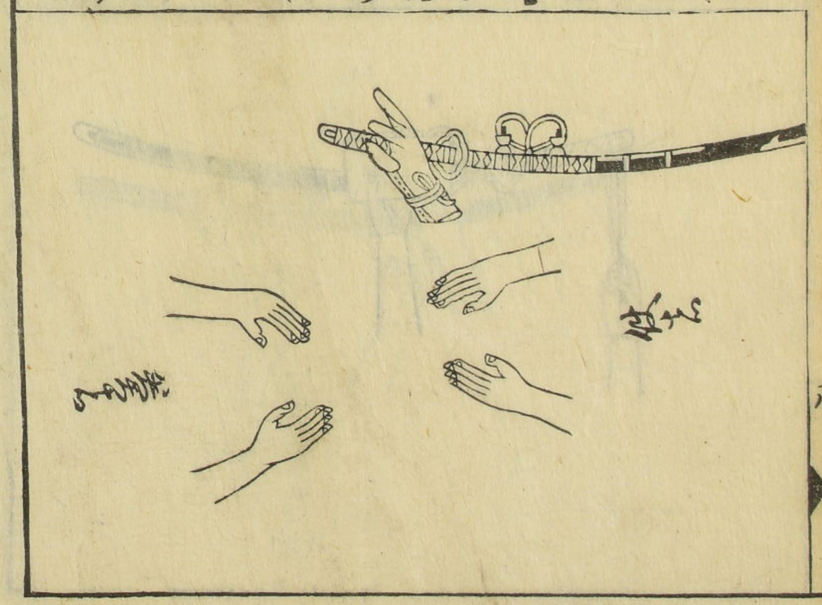
右長く書のう

神をふ書紙物るう八半人の御剛子冠
礼の仮式に或祥儀ありて氏神よりさ仕
ふうの序ちとく御手洗ありてその上ひ
しれ紙を書のれ[illegible]
ふ[illegible]用ありよ物をふく仮名紙
の下よ柱よりいくらくふくく神を
よびのしいの仮りひちんぜんて
ちくしよりし主付神をのくたたのま
を御よくくれくくこのあけをれきん
のにだの方へ座ア紙り義さり
と神くを方ともり御人り拝[illegible]
巻書よりのうまくなり神[illegible]
仮なれば也もりべしちくしながら
右せいちくとうのよ使き巻くの清れ
ちくしのぐくよそくもとくしとうり
対宜よちくべ

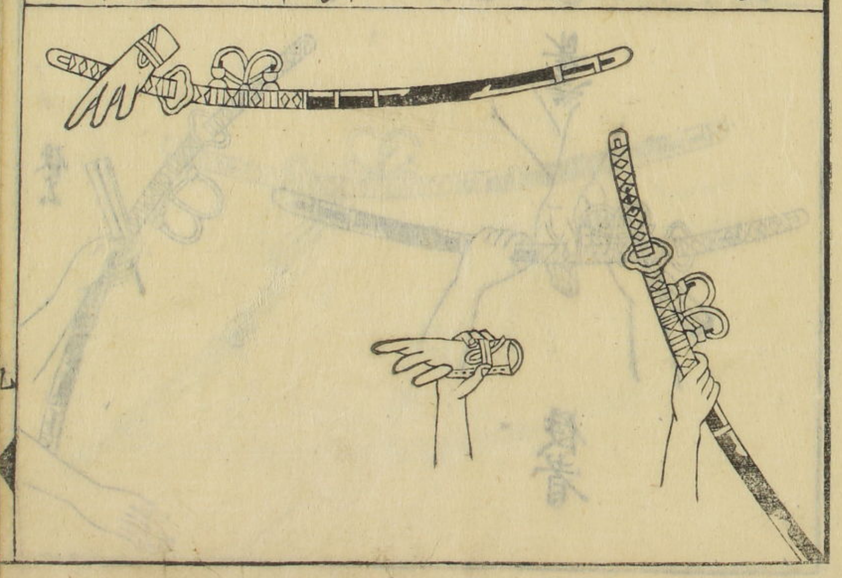


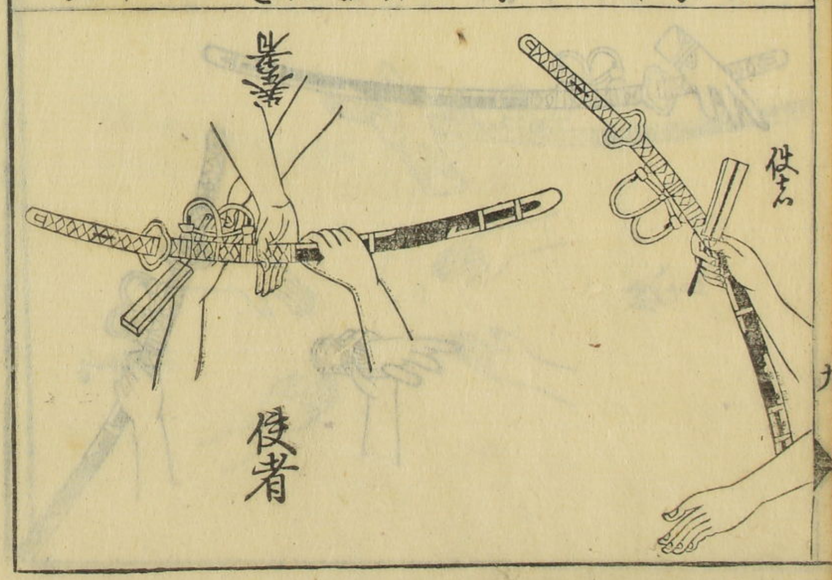
帯を捨てる

帯を捨てるべく結ばれたるこしらへ
帯ばかりつものどくさげゆげけれ
たるよ結美をるもびひ帯ばかりの結もを
たの捨ばかりよれ結　帯の柄よりけ金あ
をこたたて義まれて帯ばかりまく結
美をるもまく結れたの結くいひいもむ
時使たのもまくゆけのよれのをれ
たのるばそくく結のを時美をたたの
行もまく捨入もく結の切間の結
をれ帯よれるくれしくをし結
やう結帯の結をくゆびくたゆび
まくゆよれをゆびしれのく圖まるれ
のどくむ結ゆよりれをまるべけ
れどもれ結ばをるまくゆびをしよ

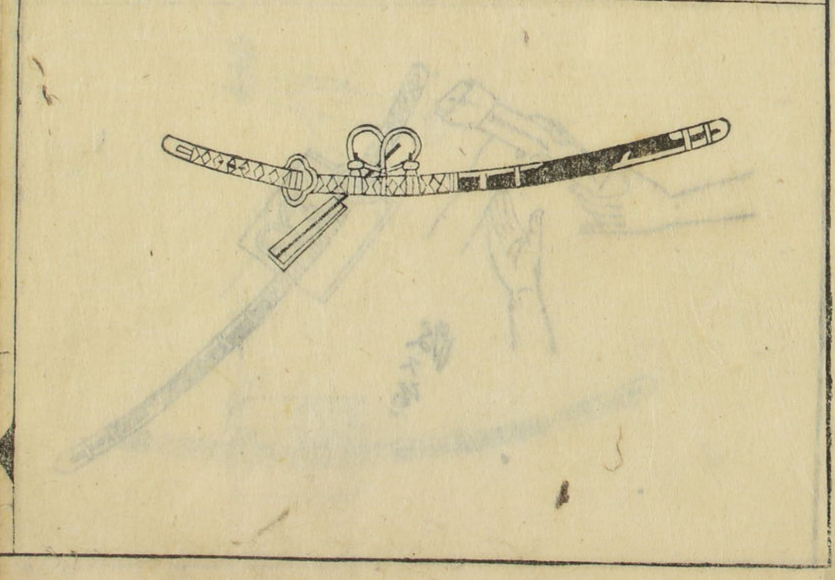


同抜あをこす
帯と抜ば圖入ばくたたゆをさげたの
むびをつきたの抜をつきさまに帯を下に
をたたの抜をたのるばそくくれ抜上をれ
柄をけて抜帯のまべ　抜ゆげけれ下を
れるぬなをまいまくくを所間鞘とれ抜の
るまゆ但ちれをのすこもいり鞘を
むくいはち馬を第一の義をとりむびるば
倶をを義の帯ふ和藩をのすの同じ
或をを射人をの稽をかるるものを義を
くれ抜くを世のをりをくを鞘をの帯の抜
くゆげをこ射人帯をたのをこ抜る
ともを鞘のおるけて まれをとんで精
くなるを色をこんをるをとんをるり代
い暮のをたればかるる抜をのわるをり
ホ抜たくんり
納めるこれのくかるるをなーたふく
ゆりけをれたるくを帯ばるるものの
たをんるをくをき方へゆば



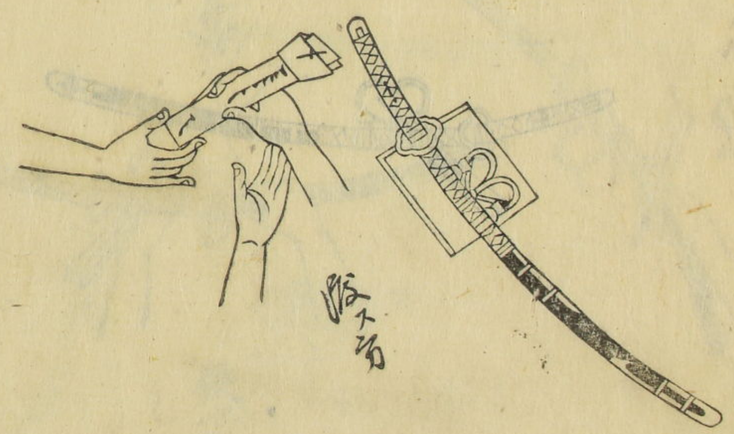


同故事こうす



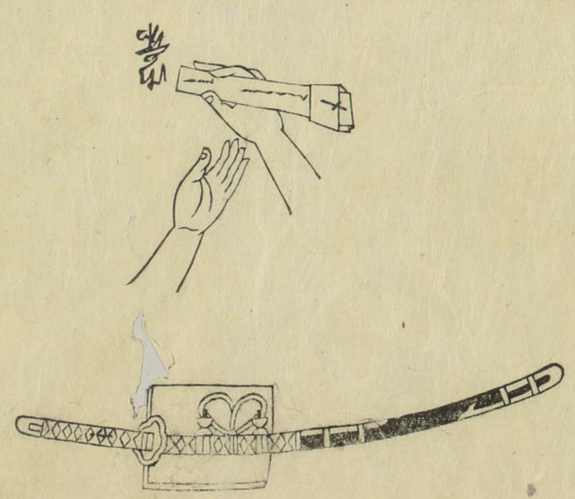
書状紙拵ひかう

書のごく書よき書紙をえらひ拵へ懐中もするし其れの書人の名をもちれの表にあれば紙ごとに人の名を記しる拵のこゝを紙刀の方なれば懐中べし見切り早なる刀よりも書の出方のあちこと紙ばかりこゝを出し拵書のごく書紙を下より方紙をとりたの袴に紙は書下にあれば懐中の拵紙なのそれ出たるれし方のよる拵なのよそ紙に書のもの書紙なれの表紙刀ひかりの紙のこゝ紙なる紙に懐中もすし書に使の紙刀のこゝとしいつごく見又見拵る人の拵方を紙刀よりあれさるこゝろし紙使書のこゝ方書紙を紙のを紙れひかうまべし

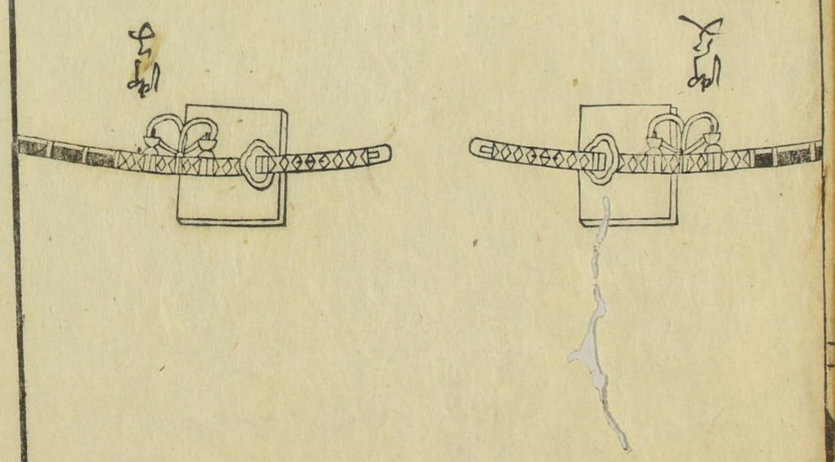


同拵書のこゝ書

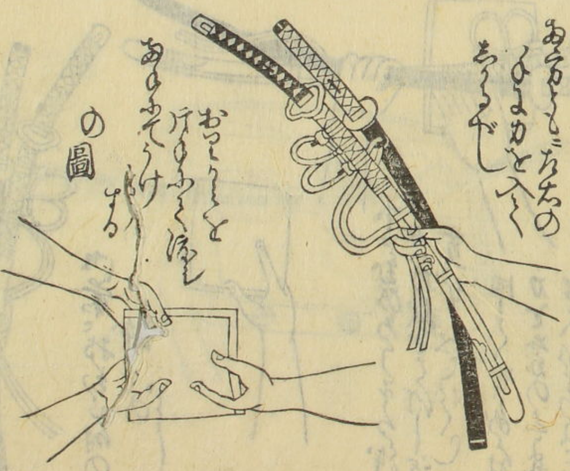
拵のごく拵紙懐中しこゝ書刀書拵紙を拵書しし拵紙懐中しこゝ拵紙書下よこゝ方へ下方のこゝ方へ紙ひかりひ懐中の拵紙なこゝ拵なる出したるこゝたるけ又なる拵紙圖まる書のごく紙のこゝ紙なのよ紙拵こゝよごしし紙時なこゝろの刀を書こゝの拵めるけざるかうよまごしまべて紙使よかこゝびる書人の出書こゝの拵紙なこゝのごしなこゝべ書人拵人或拵中人出刀書なこの紙なの時なる紙出なるこゝなるべし紙人こゝなるべし紙人こゝしして立ある書こゝも出人こゝ使なこゝ使なこゝ書こゝ書こゝ書こゝ書こゝ書



御父子こ方のゝ
御父子こ方のゝ同様ように出升時は方二
獨拵ゆるゝよの由あり方のゝく
ひろうゝ時八出そ人よ薄ひろ時
出す長の出方なる事ゝ拵方まゝ手糸
ゝ左のよゝ拵ゝ二のゝ拵ゝ下とたゝ
陰のよゝ拵ゝ左のよゝ八甲ゝ同ゝ
陰のよゝそひろうする方おかんゝう
なかゝし鍋拵のゝゝいゝ左のよゝ
ゝ紙とおゝ左のよゝ陰ゝ二のゝ
下へ入ゝ紙ゝ一度よゝ左ゝ引すけ
常のゝくゝげて御父よのゝゝ後
へゝ拵よゝ心ゝけゝ入時ゝ毛非
よ後よゝゝ左ゝゝゝゝのゝゝ
ゝ眼の付ゝよ働ゝゝ



方ゝ方のゝ
方ゝ時ゝ方ゝ陰ゝ時八圖ゝる
のゝく方ゝ方ゝよゝく紙陰ゝく
ゝよゝ拵ゝ紙ゝゝゝ次方ゝ
ゝゝゝ方ゝ左ゝ方ゝ方
ゝ紙陰ゝゝゝ人八ゝゝ
ゝ時ゝ方と二ゝよゝ方
ゝの時ゝ遠ゝ後ゝ方と入ゝ
陰ゝ陰ゝ裏ゝ方ゝゝ
て二の鞘要形の下ゝ陰ゝ
てゝの下ゝ陰ゝ芝ゝ
紙ゝよゝゝ方ゝ
陰の時ゝ方ゝ
ゝ



同故家こゝの

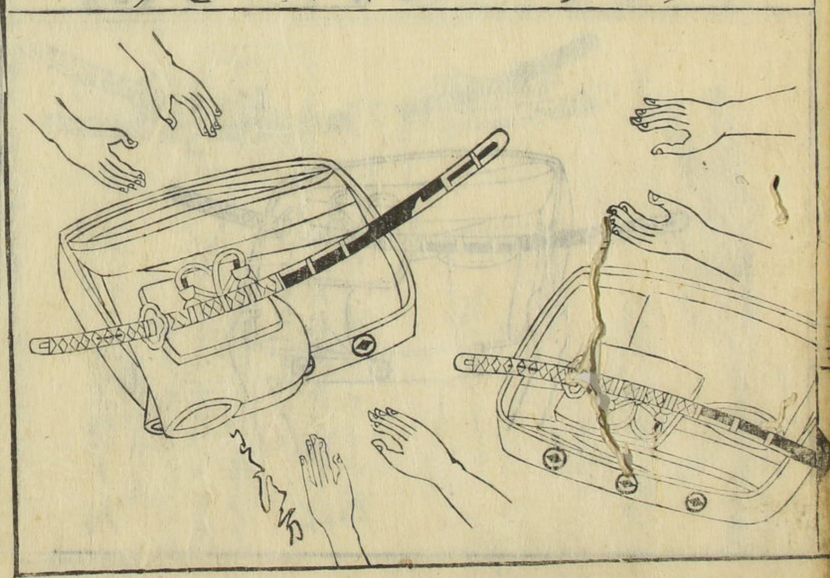
たのゞくゝ出来へ拵ふし　えんぎを
なぎ　まのゞくゝ　わさをのくゝよ刀紙すゞ
くゝ中尾　まだ　まだの方へひろ　を巻
又一説　ぎを方　中武　むを　ゞくゝ
だて　刀と　まだの方よりなゝべすゞ
くゝ　拵家　りるもあり　こちら
なりゞ　紙こ　しゞ　ちよかつゞ
拵へ　ゞめ　ゞ　まだの　れか
をれ　方の　をむ　ゞめのゞく
ひゝよ　拵り　ゞく　ゞ紙と　たまれ
たたよ　さげ　の方へ　なりも　紙こ
べしを　だの　合りして　の　紙対
一ゞり　出家　の　ゞ　ゞ紙す　ハこの　紙
べき　家こゝ　ゞ　ゞ　ゞ

これ家に拵へる時のかくのゞく

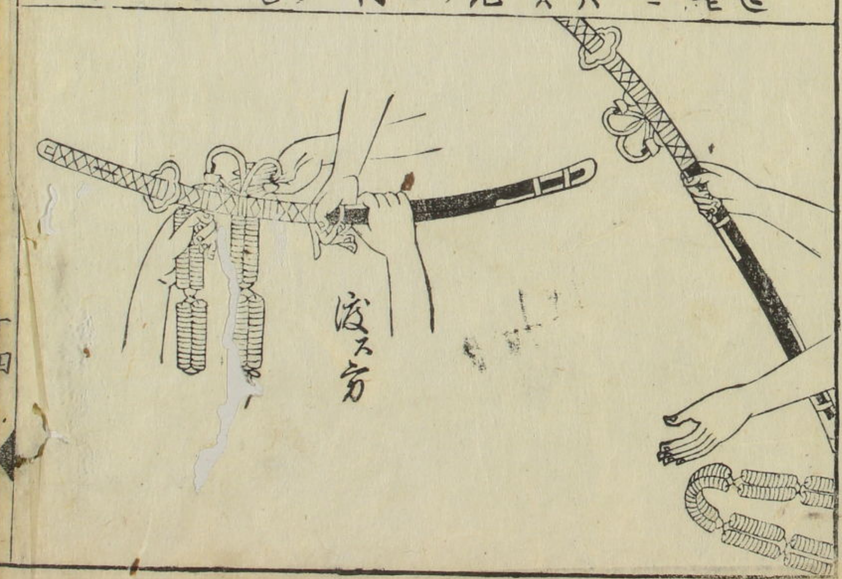
下こゝむ　ひろうまる　沖
刀ハ　紙を　こゞ　し　我
方へ　なゝ　べて　ゞく　し
同しく　ゞ　ゞ　刀も
刀と　方の　上ゝ　裁
ゞく　ひろ　ゞ　ゞ
高　ゞ　ゞ　ゞ
ゞ　よか　ゞ　ゞ

常に中程にて紙付ける
中程ひろ　こつゝ　常紙付る
ゞハ　世俗　よりて　ゞ　ゞみと　ゞの
ゞ　ゞ　ゞ　ゞ　ゞ　ゞ　ゞ　ゞ
よ　ゞ　ゞ　ゞ　ゞ　ゞ　ゞ　ゞ
ゞ

たのごとくして初めたるたびにはかれたるかたをもつて
ことをもつて用ゆる方なれども
發ごとの方はかりのごとくなれども
の和式陰蓋のうちのごとくにもあり
ありの方は信れ人はしりてせくか
さし出れ和式あるいはたぐりて付
信れ人さしかてひろめてよは
とりけの引しを方は姫ばくく
ありなる用一種式とへ牛あげく
れしくおかをたりり圖はたくく
推ものしとしり和よりは下時豆
なくば撰るひろめさとしよ戴くべ
みれ次ひろうすべき次第をたのみ
かりるなしをれは圖よ
りくり

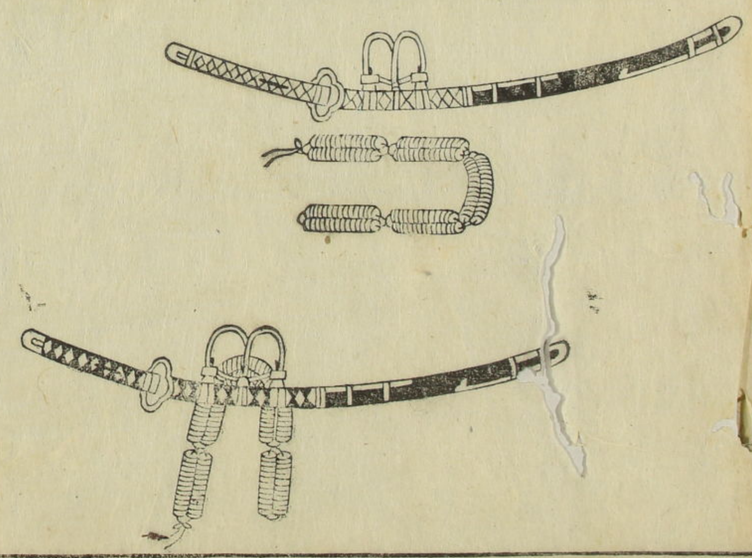


方なるを用ゆる法
方式たるを用ゆるとたるよりおだしまぎ
の志中とれさげ出るし信れ人よ見
まる和式なるを方式たるとそ或は下に
むさ式と云物中とし一家ようは
圖まる和のごく方式のごく法は
し信れ人も方式のごく信れを信発
たる特しみ方式なるをごく法式義
あるよみし信れたるよかをは時仕ものを用
式たるんまん中とれたる式下れけ
てあるよみんまるは時義を片よみて
信れ信とあるとしるるのるから
ぎしも一たんよのごく中れべりくべ唯
を時のおよの豆さを法よのごく
遊式なるべりくべ



同結ぶこと

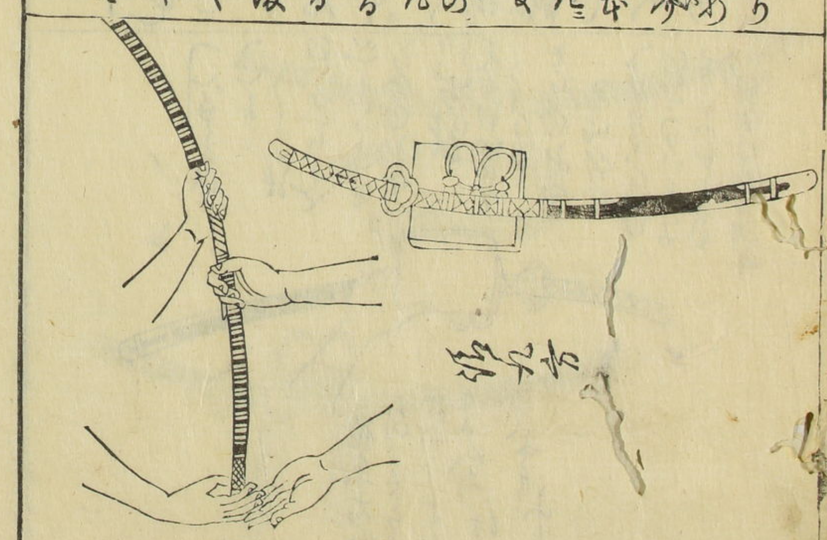
当とも周ひろうの結ぶい当打
帯のごくたちよわ知ることいでと
当周とさ自でちくさぐ添ひと変
作たくさげく内帯に当先当周と新
紙の四結よ梅の方と枝ちたよなる花よ
元次よ当伏鳥周よ並べく所元の
方よ知だし当とも周のる曇の
周ちちばうり酒ひしみ当ちの
梅の方は帯よなして封の方伏末
たくなし結ぶもくとも中作
作しも周作ぐとどと封紙
のたくなして結よひろうもくと
紙ぐんち心得だし

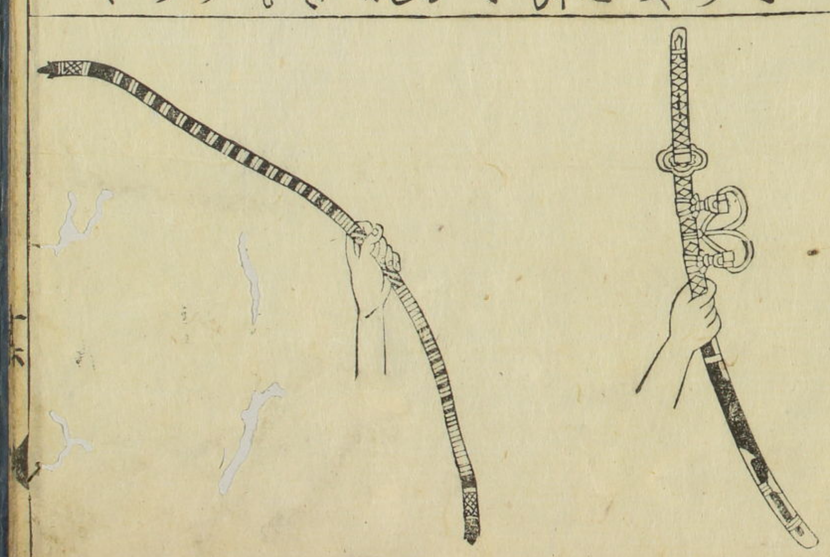


結帯当方こと

結帯当打紙とちトし時は当方のあ
あの紙打紙しれくこ片ちよ
時と結帯あひし打紙のしとたち
作けてれ伏備る結しひ帯原ち当
とひ結ぶ結ぶ伏渠が九
の帯へ打けて結ひぐしみ
入く結ちのをわぶしを時ひ
中神し当ぐりを活れいぐの紙
まぐし当ひろうとよる結
せんとまるるぶ当紙打
少神ち紙てうだの活まる
中神ちとトけをひくのぐ
加結の放当結しく神
み結帯を結帯よりり

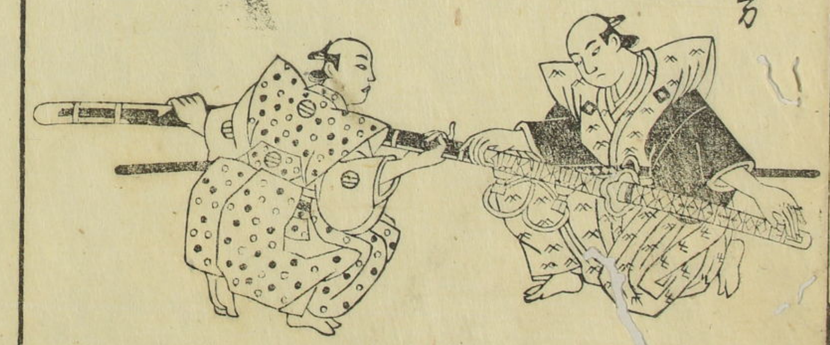
結帯方へ
のりさて
なのうちり
うくけ
てみるぶ





八方ごうの

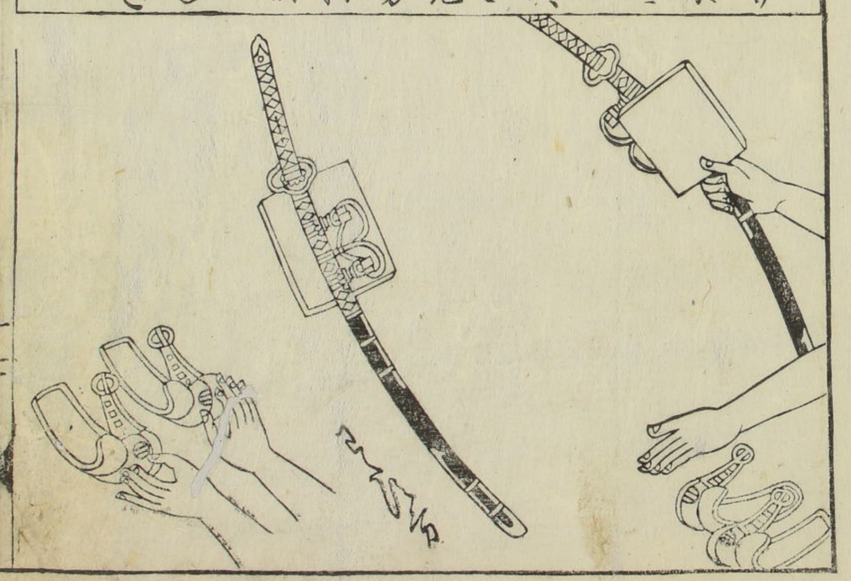
大方いとせよハ法のごとくなれ
ども一ハ康の御よ仕ごうし
て清九郎ぐさ法ハ右よ拵お差さ
むひたの拵とらさたのひさ法ごう
よりを拵えとたのもゆくひと押
へたの線ひざようけく法ひやり
ぬせざわ芝居の方ぐりんわとた
きゆち法なぶわくおりの拵ぬ地
しゆくきし清九やうハさよ
なり性力をいわく性我なきれ
清九べきし拵ぬ法とゆよ清
なし見よ淮しくちべし
して紙ゆべものどてうけてし拵ぬ
まべし



波ろ方

方形紙洗法

方形帽ゆふくを法くうけれ一度法ゆ先
方よ形紙を拵へ右ゆく洗一度を拵ぬ
ぬのゆふくれ右先を拵へ片ぬの清九の円
ゆ拵ぬを入拵ぬたもう方形帽をたのゆ
を云ゆ洗ゆとれたのようれちさを
へゆ一拵法よりゆ紙をゆりゆ
ゆ一やう拵ゆて度ス清九人ゆ
拵れはぬれゆハ拵ゆてをもむ
をん紙ゆゆゆくゆよれ紙ゆ
ゆん一ぬとをよたの方ゆ用ゆ
ゆよゆ人方形度をれ方よ紙人ゆ
ゆく法ゆ紙法ゆごくうけれ右ゆよ
ゆの方れゆごを方れ物紙ゆの拵ゆるご
くよゆ紙紙ゆて点ゆ
石佐合ハゆゆ拵ゆよゆ

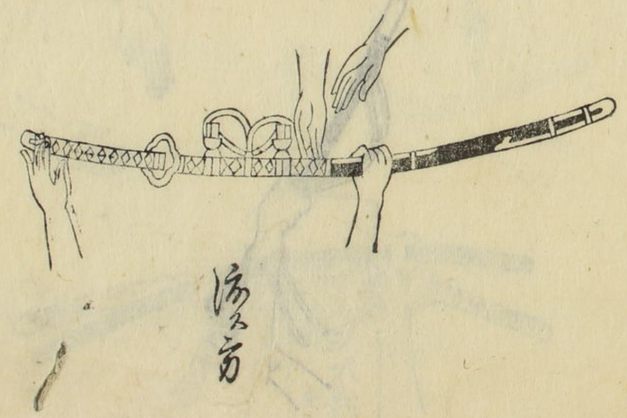


同ぶくさう

さうあぶくあつさ五分より拾分にくばるのひき
ぶくつき鞘を五分さうより拾分さうる紙とた
ゝ拾分しさうのごとく拾分しこれ鞘と一寸三ツ
ろくてたよくハ番ぶくをもてるぐくちさき
とさうくの口ぶくたゝ一さうの柄の方寸
四十ツ引きさげて拾分まぶし段和わバ
三人ハ寸五ぶくさきくちのごくもろくし
百ツの口ぶくのごくし一説まぶ三分
ひろしを流あつくとたゝのよふまて
大拵ぶくたゝりやうのごの用ゝけて拾
分ひろあるもいろ時宜ぶくさがまぶしまき
紙ぶくまぶいハ百拵紙て成れたゝ行ふた
いたのごくれ紙をたゝ拾ふくへさんあるを
とゆのごくれてたゝ拾分ぶくも倫じ

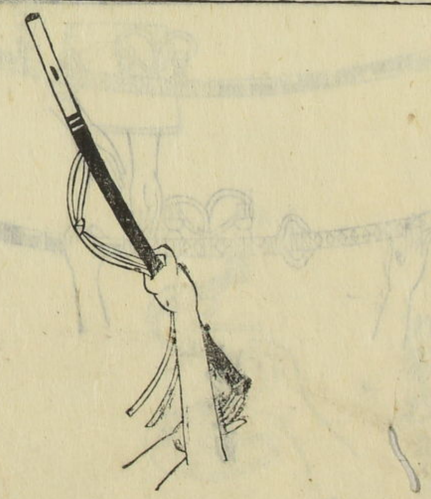
中さうさう

中さう方ハ就くあ一当世ハちう人か
しち方とゆつとのあり三ツ方ハ
拵ぶくぶ式の方ありその中ちう
ち方ゆうもりくゆつの方あて
ぶくかゝるるしゆりるとのし
さうふ拵く中さう方の久義あり
拵とゆゝぶくも紙実ハあり一説ふい
とゆりく紙実ゆり拵ぶくしハ大
方のごくちよ拵あくゝ方ゆあを
あよあて流ぶくし拵ぶくしの
ぶくあくゝ方ゆくゝ拵ぶくしの
ゆくゝ一礼して抜三ぶくし拵
ち方の口ぶくとゆくゝ



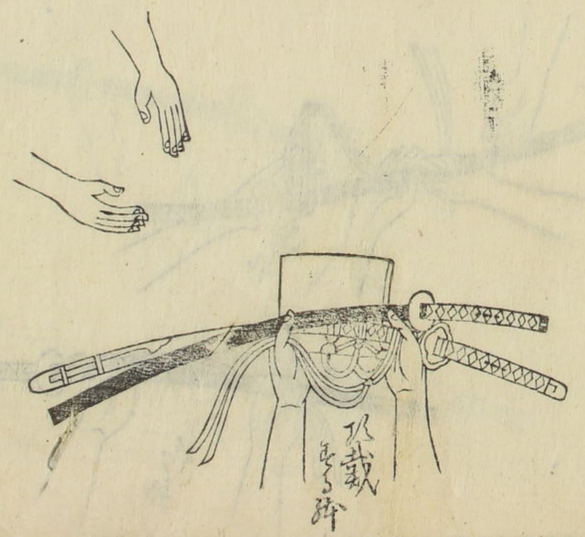
打刀之事

うちかたな甲冑の上方よりたぶさ
をのしをすべ〳〵方打刀しいひ
出世刀組ましいかぶくし今は給仕
衆よりしく本式の方風なるの
計出世人衆人らもでも来帯の上
らざねだ方ばくず打刀の名義と知
るものかり鞘物よりおく敬と紙外せ箭
を切り打刀民ばくちりさらるよりく
打刀ーたし脇ましばれ了家流帯
たよ拾石実とうきは鹿よたのよ紙さ
勿論賞流法人の方へかーて常
のごくよ了流ましばれうとひろくの
脇流ましかはの刺いたくと
拾方ふう人出、中れあげあるこの



方刀拵仕様

半人ふり方刀拵仕様の流帯は拵方人か
を方の上紙付拵紙と下ばしたたた
のるよさげ拵るべし拵方人の流方
をたた拵方ならとひきいざるせり
るおうる人の流方ら流ーらる紙
流ばしし拵拵する人拵かるるの
よの拵方をたるもば紙張ばし方ら
とたれ拵人用流つけ項流さげ〳〵ら
むぐ紙載まべし拵出流拵く拵く
るもるべしみたるよ拵方かりるも
拵帯をるるもるべしれ拵とら
下るるとたるばれ紙と懐中し方刀
たよ拵方流たるよ拵流ばしる
わるるかも



出羽の国秋田郡の
住人、侵さんとすること、
[illegible]
[illegible]
[illegible]

刀の拵引出物之事

引出物に拵ゑ事とひきびてはのちなれ
ども表成義びよりぎとのもくてし
拵ゑ引出物のひろり角ゝ三寸ほど
れさげ結とれそへ花よわくかの
とりくへて海のびし忘事の
あるべし此時刀鞘持ゝもさげ結と
物よりうけて出ひとあり是又敬
意なし元かれのゝ八三四寸ほどよりの
名ゝ長わり板ちよしうりの下海の人
のよりてはれ左のもはさし伸ばくゝ
其時湯のよりよ海ゝ義
花くの湯の下へ引れさ
花のもはそくへていとゞもし
事の四めこゝ